

みんなで楽しむ、故郷を元気に  
～カーボン・オフセットの新しい形～

平成26年6月  
環境省地球環境局地球温暖化対策課  
市場メカニズム室

1

1. 「我が国におけるカーボン・オフセットのあり方(指針)」の改定について

2

# 我が国におけるカーボン・オフセットのあり方について(指針)第二版目次

## はじめに

### 1. カーボン・オフセットの定義及び主な取組

#### (1) 定義

- ・カーボン・オフセットとは
- ・カーボン・ニュートラルとは

#### (2) 意義及び効果

- ・社会の構成員による主体的な削減活動の促進
- ・温室効果ガスの排出削減・吸収プロジェクトへの資金還流
- ・地域における投資促進・雇用確保等による地域活性化への貢献

#### (3) 主な取組

### 2. 我が国におけるカーボン・オフセットのあり方について

#### (1) カーボン・オフセットの実施に際しての信頼性の確保

##### (2) 温室効果ガス排出量の把握

- ・カーボン・オフセットの対象とする活動の範囲の設定
- ・温室効果ガス排出量の「見える化」
- ・カーボン・オフセットの対象とする活動から生じる排出量の算定方法

##### (3) 温室効果ガスの排出削減の取組

##### (4) カーボン・オフセットに用いられる排出削減・吸収量(クレジット)

- ・カーボン・オフセットに用いられるクレジットの性質
- ・カーボン・オフセットに用いられるクレジットの管理
- ・カーボン・オフセットに用いられるクレジットの種類

##### 市場流通型クレジット

##### 非市場流通型クレジット

##### (5) オフセットの取組(埋め合わせ)

##### (6) カーボン・オフセットの実施に際しての透明性の確保

- ・カーボン・オフセットの実施に際しての透明性の確保
- ・カーボン・オフセットに係る温室効果ガス排出削減・吸収の効果の主張について
- ・オフセット・プロバイダーについて
- ・カーボン・オフセットの取組内容に係る確認

下線部は主な改訂箇所

3

## 1. カーボン・オフセットの定義及び主な取組

### (1) 定義

- カーボン・オフセット: 市民、企業、NPO/NGO、自治体、政府等の社会の構成員が、自らの温室効果ガスの排出量を認識し、主体的にこれを削減する努力を行うとともに、削減が困難な部分の排出量について、他の場所では実現した温室効果ガスの排出削減・吸収量等(クレジット)を購入すること又は他の場所で排出削減・吸収を実現するプロジェクトや活動を実施すること等により、その排出量の全部又は一部を埋め合わせる
- カーボン・ニュートラル: 社会の構成員が、自らの責任と定めることが一般に合理的と認められる範囲の温室効果ガスの排出量を認識し、主体的にこれを削減する努力を行うとともに、削減が困難な部分の排出量について、クレジットを購入すること又は他の場所で排出削減・吸収を実現するプロジェクトや活動を実施すること等により、その排出量の全部を埋め合わせた状態



4

# 1. カーボン・オフセットの定義及び主な取組

## (2) 意義及び効果

- カーボン・オフセットの意義として新たに「地域における投資促進・雇用確保等による地域活性化への貢献」を追加

### 社会の構成員による 主体的な削減活動の促進

- 社会の構成員が地球温暖化問題は自らの行動に起因して起こる問題であることを意識し、これを「自分ごと」と捉え、主体的に温室効果ガスを削減する活動を行うことを促進
- 削減努力をしても残ってしまう部分を、クレジットの購入などを通じて埋め合わせることで、温室効果ガスの排出がコストであることの認識につなげる

### 温室効果ガスの排出削減・ 吸収プロジェクトへの 資金還流

- クレジットを介して、温室効果ガスの排出削減・吸収を実現するプロジェクト、活動等の資金調達に貢献
- カーボン・オフセットに参加する各主体が、温室効果ガスの排出削減・吸収を実現するプロジェクトの実施に資金面で貢献する機会を提供

NEW

### 地域における投資促進・ 雇用確保等による 地域活性化への貢献

- 温室効果ガスの削減・吸収量が、その地域の中や都市部の自治体・企業によって活用されることで、地域への投資の促進や新たな雇用が創出され、地域の活性化に貢献
- 大気質・水質の改善、植林・森林保全やそれを通じた生物多様性の保全など、地域の環境保全と温室効果ガスの削減・吸収という複数の効果(コベネフィット)を同時に実現

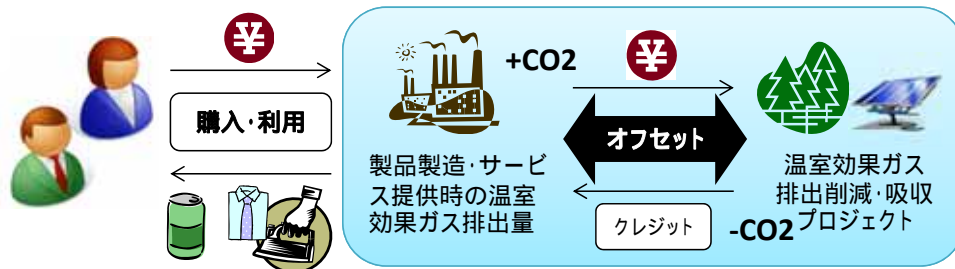
5

# 1. カーボン・オフセットの定義及び主な取組

## (3) 主な取組

### オフセット製品・サービス

製品を製造/販売する者やサービスを提供する者等が、製品やサービスのライフサイクルを通じて排出される温室効果ガス排出量を埋め合わせる取組



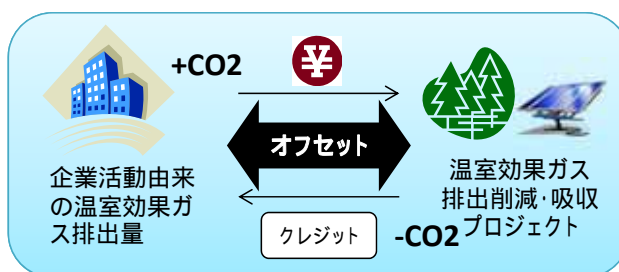
### 会議・イベントのオフセット

コンサートやスポーツ大会、国際会議等のイベントの主催者等が、その開催に伴って排出される温室効果ガス排出量を埋め合わせる取組



### 自己活動オフセット

自らの活動、例えば組織の事業活動に伴って排出される温室効果ガス排出量を埋め合わせる取組



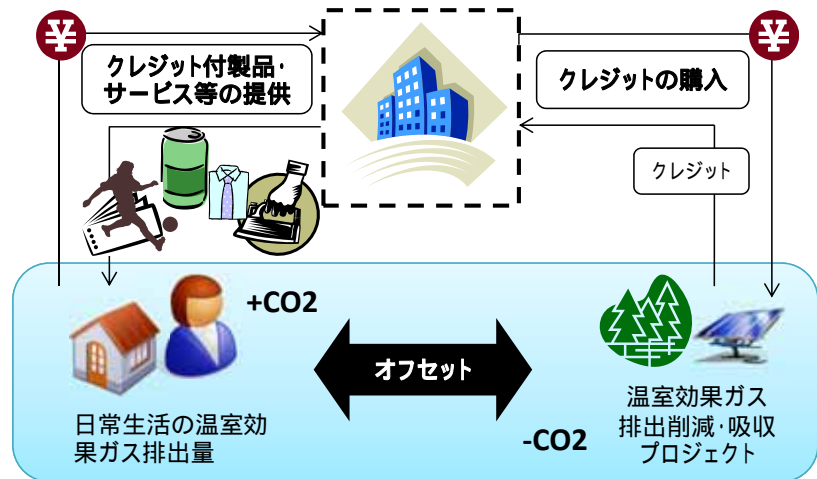
6

# 1. カーボン・オフセットの定義及び主な取組

## (3) 主な取組

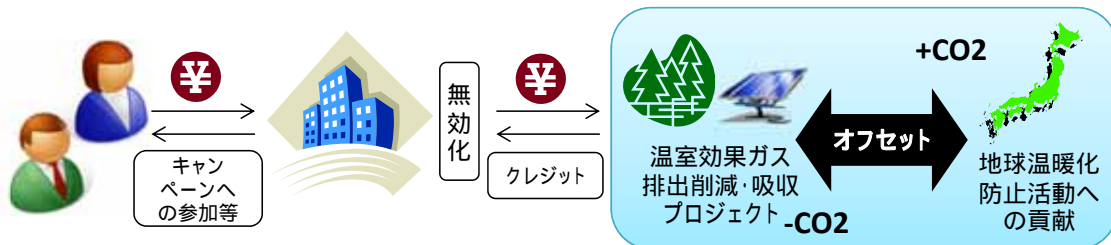
### クレジット付製品・サービス

製品を製造 / 販売する者、サービスを提供する者又はイベントの主催者等が、製品・サービスやチケットにクレジットを付し、製品・サービスの購入者やイベントの来場者等の日常生活に伴う温室効果ガス排出量を埋め合わせる取組。



### 寄付型オフセット

製品を製造 / 販売する者、サービスを提供する者又はイベントの主催者等が、クレジットの活用による地球温暖化防止活動への貢献・資金提供等を目的として参加者を募り、クレジットを購入・無効化する取組。



## 2. 我が国におけるカーボン・オフセットのあり方について

### (1) カーボン・オフセットの実施に際しての信頼性の確保

●カーボン・オフセットの取組に対する信頼性を構築する上では、以下の事項が重要である。

- カーボン・オフセットの対象となる活動に伴う排出量を一定の精度で算定する必要があること
- カーボン・オフセットが、自ら排出削減を行わないことの正当化に利用されるべきではないとの認識が共有される必要があること
- カーボン・オフセットに用いられるクレジットを生み出すプロジェクトの排出削減・吸収の確実性・持続性の確保及び排出削減・吸収量が一定の精度で算定される必要があること
- カーボン・オフセットに用いられるクレジットを創出するプロジェクトの二重登録、実現された削減・吸収量に対するクレジットの二重発行及び同一のクレジットが複数のカーボン・オフセットの取組に用いられることを回避する必要があること
- カーボン・オフセットの取組について適切な情報提供を行う必要があること
- オフセット・プロバイダーの活動の透明性を確保する必要があること

## 2. 我が国におけるカーボン・オフセットのあり方について

### (2)温室効果ガス排出量の把握、(3)温室効果ガスの排出削減の取組

#### (2)温室効果ガス排出量の把握

##### (カーボン・オフセットの対象とする活動の範囲の設定)

- 活動の状況に合わせて柔軟かつ多様な形でカーボン・オフセットの取組が行えるよう、**オフセットを行う者が主体的に選ぶものである。**
- より効果的な温室効果ガスの排出削減を行うためには、ライフサイクルやサプライチェーンの考え方等を参考にし、**範囲をなるべく広めにとることが望ましい。**

##### (温室効果ガス排出量の「見える化」)

- 社会の構成員がカーボン・オフセットを通じ、主体的に排出削減を実施するためには、まず、**自らの活動の中でどれくらい温室効果ガスを排出しているかを知ること(「見える化」)**が必要である。

##### (カーボン・オフセットの対象とする活動から生じる排出量の算定方法)

- 公的機関より提供されている**算定に係るガイドライン**や、**様々な活動ごとの排出係数等を参照**することで、簡易かつ信頼性の高い算定を行うことが可能である。

(例)：環境家計簿(環境省)、算定・報告・公表制度における排出原単位(環境省・経済産業省)

#### (3)温室効果ガスの排出削減の取組

- 温室効果ガスの排出削減の取組をどのように行うかは、カーボン・オフセットを行う者が創意工夫を発揮して主体的に決めるものであり、自らの排出量を認識した上で**可能な限り排出削減の取組を実施する必要がある。**
- 企業が製品・サービス等にクレジットを付し、消費者の温室効果ガス排出量のオフセットを支援する取組等、排出削減の取組を担保することが実際上困難である場合には、消費者に対し、カーボン・オフセットに際しての**排出削減の取組の重要性を伝える**等の啓発を行うことが望ましい。

## 2. 我が国におけるカーボン・オフセットのあり方について

### (4)カーボン・オフセットに用いられる排出削減・吸収量(クレジット) (5)オフセットの手続(埋め合わせ)

#### カーボン・オフセットに用いられるクレジットの性質

(以下の項目について一定の基準を満たしていることが必要)

- 確実な排出削減・吸収が実現されていること
- 排出削減・吸収量が一定の精度で算定されていること
- 温室効果ガス吸収の場合はその永続性が確保されていること
- クレジットを創出するプロジェクトの二重登録、クレジットの二重発行及びクレジットの二重使用が回避されること

#### カーボン・オフセットに用いられるクレジットの管理

(以下の管理がされていることが必要)

- クレジットを創出するプロジェクトが二重に登録されないこと
- クレジットが二重に発行されないこと
- カーボン・オフセットに用いられる同一のクレジットが複数のカーボン・オフセットの取組に用いられないこと

#### オフセットの手続(埋め合わせ)

(以下の手続が必要)

- 登録簿上でクレジットを無効化すること
- 登録簿が整備されていない場合には二重使用が起きないように自らが管理すること
- オフセットの対象となる活動からの排出があってから、又は消費者の温室効果ガス排出量のオフセットを支援するためにクレジットが付与された製品・サービス等が購入・利用等されてから無効化を行う場合には、速やかに無効化することが望ましい

#### 市場流通型クレジット

一定の基準に基づき創出され、第三者への譲渡及び市場への流通が想定されているクレジット

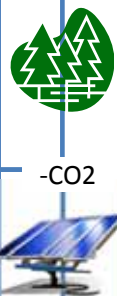
(例) 京都メカニズムクレジット、J-クレジットなど

- 公的機関による能力等の確認がなされている第三者機関による検証が行われているもの

#### 非市場流通型クレジット

特定のカーボン・オフセットの取組を行う者と排出削減・吸収活動を行う者との間で合意されたクレジット、もしくは自らが他の場所で植林等の排出削減・吸収活動を実施することで実現したクレジットであり、第三者への譲渡や市場での流通が想定されていないクレジット

- クレジットが創出された温室効果ガス排出削減・吸収プロジェクトや活動の内容を十分理解し、自らの責任でカーボン・オフセットの信頼性の確保に努めることが必要



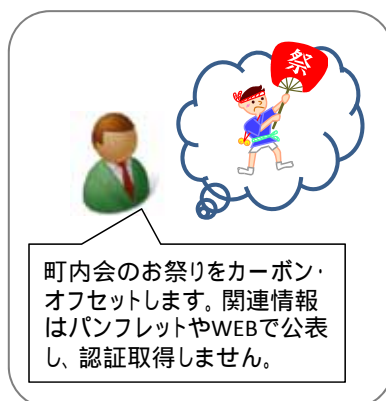
## 2. 我が国におけるカーボン・オフセットのあり方について (6)カーボン・オフセットの実施に際しての透明性の確保

### ● カーボン・オフセットに係る温室効果ガス排出削減・吸収の効果の主張



### ● カーボン・オフセットの取組内容に係る確認

- オフセットの対象活動、対象となる範囲・排出量、クレジットを創出するプロジェクトの内容・クレジット量、埋め合わせ時期等を公開することが必要
- 取組の規模や内容によって第三者等による確認の有無を選択できる



11

## 「我が国におけるカーボン・オフセットのあり方について(指針)」改訂のポイント

### ● 意義及び効果の追加

- これまでのカーボン・オフセットの取組状況を踏まえ、カーボン・オフセットの意義及び効果に「**地域における投資促進・雇用確保等による地域活性化への貢献**」を追加

### ● 分類の簡素化

- カーボン・オフセット制度をわかりやすくするため、カーボン・オフセットの**類型を削除**
- 代わりに、主なカーボン・オフセットの取組 (**オフセット製品・サービス、会議・イベントのオフセット、自己活動オフセット、クレジット付製品・サービス、寄付型オフセット**) を例示
- カーボン・オフセットに用いるクレジットの種類を「**市場流通型クレジット**」と「**非市場流通型クレジット**」に大別

### ● 取組に関与した旨を主張する際の考え方を整理

- **二重登録**(クレジットを創出するプロジェクトが二重に登録されないこと)、**二重発行**(クレジットが二重に発行されないこと)、**二重使用**(同一のクレジットが複数のカーボン・オフセットの取組に使用されないこと)を**防止すること**(登録簿が整備されているクレジット(J-クレジット、京都メカニズムクレジット等)を活用すること等)を明記
- 一方、**カーボン・オフセットの取組に関与した旨を主張**することは、環境価値の二重主張には当たらず、むしろカーボン・オフセットの**認識拡大に資する行動として奨励**されることを明記

推奨される主張の例:「オフセット製品を売りました / 買いました」、「オフセットされたイベントに参加しました」、「カーボン・オフセットを行っている企業を応援しています」

### ● 取組内容に係る確認の簡素化

- 社会全体で容易にカーボン・オフセットに取り組むことが可能となるよう、カーボン・オフセットの取組内容について、**第三者等による確認**は、取組の規模や内容によって**選択**することに変更(カーボン・ニュートラルについては引き続き第三者機関による検証が必要)

12

# 「我が国におけるカーボン・オフセットの推進に向けた展望」の概要

## カーボン・オフセットを推進する上での課題

- オフセットの取組が評価される仕組みの構築
- オフセットの認知度・理解度の向上
- オフセット製品・サービスの更なる普及
- オフセットの取組の継続性の確保
- 政府や自治体の率先垂範
- 信頼性のあるカーボン・オフセットの推進体制の充実化
- 市民のカーボン・オフセットに関する正しい理解の普及

### (1) オフセット製品・サービスの流通拡大

オフセット製品・サービスの消費量の増加により、事業者による商品開発や供給量を増加させ、流通拡大の好循環を構築

- 簡潔でわかりやすく、的確なクレジット情報の消費者への伝達
- 個人での省エネ・再エネ活動に加えて、各主体が連携して取り組むカーボン・オフセットも含めたキャンペーンの展開
- 若年層に対するカーボン・オフセットの教育の場の拡大
- 金融機関等によるカーボン・オフセットの取組の評価の促進
- カーボン・オフセット認証に係る手続の簡素化
- ガイドライン類をわかりやすくするための統合、Webでの相互参照
- 政府・自治体によるカーボン・オフセット製品の利用促進、取り組む事業者を評価する仕組みの構築

### (3) 普及促進母体の活性化

- これまで実施してきた普及啓発活動の継続と拡大
  - < J-COF、JCAP >  
カーボン・オフセットの取組情報について消費者や金融機関に幅広く情報提供し、投資家の意識を喚起
  - < CO-Net >  
事業者に向けた情報提供、カーボン・オフセット大賞等、カーボン・オフセットの普及の土台となる活動を期待

### (2) 地域におけるクレジット創出やオフセットの推進体制の強化

地域への資金還流・雇用創出等を通じた地域の活性化、オフセット実施による地球温暖化対策の推進及び地域の環境保全を同時に達成

- 特定地域協議会を地域におけるカーボン・オフセットの担い手として、相談窓口・マッチング、取組事例の収集、優良事例集の作成、イベント等を通じた普及啓発、カーボン・オフセット認証支援を実施
- 特定地域協議会間及び政府等との情報共有、最新の政策の方向性のフィードバック
- ケーススタディ等を通じたマッチング専門家の育成
- 都市・地域における温室効果ガスの算定・報告・検証や、都市・地域全体の排出削減が促進される仕組みの検討

### (4) カーボン・ニュートラル

- 温室効果ガス排出をカーボン・ニュートラル化していくような機運を高める
  - 個別の取組に係る技術的支援
  - 国内外における取組事例の紹介
  - 国内の先進的な取組の海外発信

13

## 2. 平成26年度事業について

## 今年度環境省カーボン・オフセット関連施策のポイント

クレジットの活用先を拡大させるため、以下の点について力を入れて取り組む。

### 地域におけるカーボン・オフセットの推進

- ・クレジットを活用した商品開発についての検討
- ・カーボン・オフセット及びJ-クレジットの研修機会の拡充
- ・各地域の拠点となる特定地域協議会の活動支援の拡充

### 気候変動キャンペーンと連携したカーボン・オフセットの推進

気候変動キャンペーン(Fun to Share)と連携し、Fun to Shareの認知拡大とともに、カーボン・オフセットの個別の取組を国民全体にPRする。



クレジット付き商品を  
Fun to Shareと連携し  
てPRしている事例

### 環境省主催イベント等の積極的なオフセット化

環境省主催のイベントや会議等について、できることから率先してカーボン・オフセットすることで、民間の取組への波及を狙う(環境白書、調達方針(什器、印刷用紙))。

15

## Q.あなたは日常の買い物でどちらの商品を購入したいですか？



A. 通常の商品



B. 環境に配慮したラベルを表示している商品

16



# EVIアンケート調査結果(2013年11月)より

- 環境保護活動に結び付く商品やサービスを購入・使用.....**62%が実際に実践**  
(ボランティア等の直接的活動より、間接的活動の方が参加しやすい)
- 商品やサービスが環境貢献型であることの購入への影響.....**67%が影響すると回答**
- 商品やサービスの品質・価格が同じなら環境貢献型を選ぶ.....**79%が選ぶと回答**

17

2013 JCAP会合説明資料より

## 関西広域カーボン・クレジット社会実験について

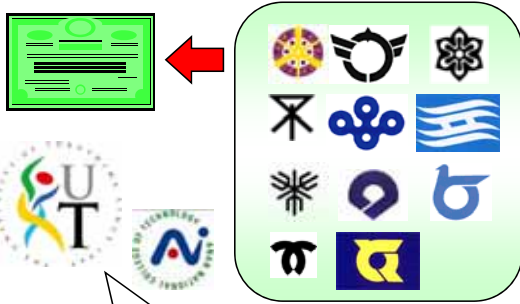


関西広域連合広域環境保全局クレジット調査検討作業チームリーダー

徳島県県民環境部環境総局環境首都課係長 **正 本 英 紀**

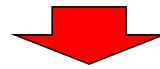
18

## カーボン・オフセットクレジットの購入(11月～)



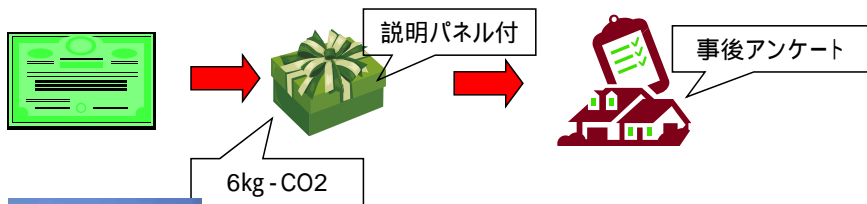
取組を支援

徳島大学総合科学部から51t-CO<sub>2</sub>, 阿南高専から10t-CO<sub>2</sub>のクレジット計**61t-CO<sub>2</sub>(J-VER・国内クレジット)**の購入支援を受ける。



共通ラベルを**計10,100枚**作成するとともに, 1枚あたり6kg-CO<sub>2</sub>(1人1日当たりのCO<sub>2</sub>排出量相当)のクレジットを適用し, 各府県・政令市の31事業所に配布する。

## 各施設・店舗での貼付実験(12月3日～28日)

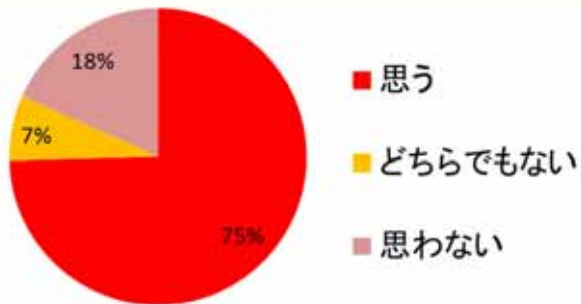


商品貼付後, カーボン・オフセットによるイメージアップや関西広域カーボン・クレジットへの印象に関するアンケート調査を実施。(徳島大学大学院の協力)



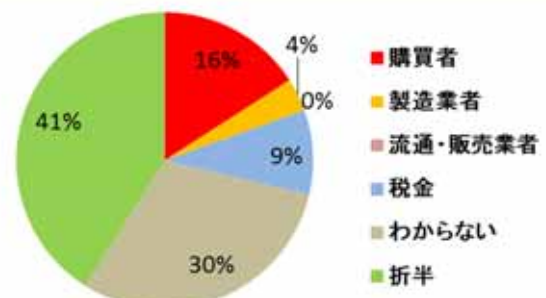
トレイルランニング 温泉入浴券・おみやげ ハンカチ等(そごう徳島店) 甘党まえた(大阪府) 農産物産直市(徳島県勝浦町)

今後、『カーボン・オフセット商品』を見かけたら購入しようと思う？



カーボン・オフセット商品を購入することについて否定的ではない

今後、『カーボン・オフセット』に要するコストは主にだれが負担すべき？



購買者を含まない折半・・・10%  
購買者を含む折半・・・90%

購買者の52%はCO<sub>2</sub>削減対策に関する負担をすることについて否定的ではない

環境に配慮した商品は手間がかかり、その分コストがかかるので、企業としては取組に踏み切れないのが現状。

しかし、

消費者はそのような商品を購入したいという思いがあります。

21

### 環境に配慮した商品の開発に係る課題

- どのように商品開発するかがわからない  
→ J-クレジットを商品の数量分購入するのみ
- 寄付分は本当に温暖化対策事業に使われるのか  
→ 国の制度により信頼性・透明性を確保
- 温暖化対策事業の種類や地域を絞り込みたい  
→ プロジェクトは約25種類、かつ、全都道府県でクレジットあり
- 開発した商品を広くPRしたい  
→ 気候変動キャンペーン「Fun to Share」で全国的に情報発信

環境省では、カーボン・オフセットの仕組みを利用したオフセット商品の開発の支援を今年度より強く進めていきます。

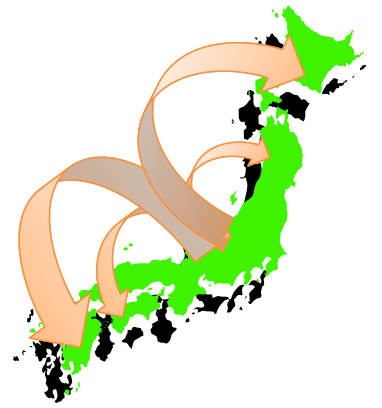
22

## ➤ 地域におけるカーボン・オフセットの推進

説明会や地域協議会の活動支援等について拡充を行う

説明会：全国7ヶ所→7ヶ所×2回程度を想定

特定地域協議会の活動支援：400万円/件から増額し、採択件数を増やすことで調整中



## (参考) 平成25年度カーボン・オフセット特定地域協議会について

特定地域協議会とは、地域におけるクレジット創出事業者とカーボン・オフセットに取り組む地方自治体・企業等を構成員とし、各地域で運営され、カーボン・オフセットやJ-クレジット等の売り手と買い手のマッチングを促すもの。採択された事業者は、カーボン・オフセット及びJ-クレジット制度等の普及啓発や情報発信、具体的なカーボン・オフセットの取組方に関するアドバイスやコンサルティングを行う。



北海道地域カーボン・オフセット推進ネットワーク

東北地域カーボン・オフセット推進ネットワーク

「TOKYO」地域カーボン・オフセット推進ネットワーク

KANAGAWA地域カーボン・オフセット推進ネットワーク

中部地域カーボン・オフセット推進ネットワーク

近畿地域カーボン・オフセット推進ネットワーク

中国地域カーボン・オフセット推進ネットワーク

高知地域カーボン・オフセット推進ネットワーク

九州地域カーボン・オフセット推進協議会

有明海関係県地域カーボン・オフセット推進ネットワーク

沖縄・島嶼地域カーボン・オフセット推進ネットワーク

## 今年度の環境省カーボン・オフセット関連施策のポイント

- ✓ **クレジット創出者、一般消費者、メーカー・小売・流通業者の連携**
- ✓ 以下のいずれかの対象商品を流通
  - 商品の購入代金の一部がクレジット創出者に還元される寄付型の商品
  - クレジットをあらかじめ付与した商品
  - 製造時等のCO2排出量をオフセットした商品
- ✓ 「みんなでやる」「故郷を元気に」をキーワードに進める
- ✓ 商品を購入するだけで温暖化対策や故郷に貢献できる点をPRする

### 全国のクレジット創出事業者



## 昨年度の環境省カーボン・オフセット関連施策のポイント

### ➤ 環境省主催イベント等の積極的なオフセット化

エコライフ・フェア 2013

日時:平成25年6月1日(土)～6月2日(日)

場所:代々木公園

オフセット量:約5トン



### 地球温暖化防止とサンゴ礁保全に関する国際会議

日時:平成25年6月29日(土)～6月30日(日)

場所:沖縄県国頭郡恩納村

オフセット量:約19トン



## 今年度のカーボン・オフセット関連施策(予定)

「事業者の活動促進」「消費者への理解の促進」は今年度も重要な課題と位置づけ、事業者向けには各種支援事業を通じた活動促進を、消費者向けには全国のイベント開催・出展を通じた普及活動を継続。

### 認証取得支援

- **カーボン・オフセット及びカーボン・ニュートラル認証取得支援事業の継続実施。**  
→ 昨年度までに引き続き、それぞれの認証取得等にかかる経費の支援を実施。

### 普及啓発

- **一般向け及びビジネス向けの普及啓発施策の実施。**  
→ Fun to Shareと連携した商品等の展開キャンペーンを行う。また、エコプロダクツ等、環境イベントへのブース出展を行う。

### 説明会

- **カーボン・オフセット及びJ-クレジットの全国説明会の開催。**  
→ ビジネス向けの研修会として、「事業者」を対象に開催。

### マッチング

- **特定地域協議会による、地方でのカーボン・オフセット活性化施策支援。**  
→ 15箇所支援を行う。採択された事業者は、地元で1回以上マッチングイベントを開催。

### その他(民間団体との連携等)

- **カーボン・オフセット推進ネットワーク(CO-Net)と連携した、カーボン・オフセット大賞の継続と発展。**